

キャリア支援センターにおける取り組み

お茶の水女子大学 学生支援センター
(キャリア支援センター兼務)
准教授
望月由起

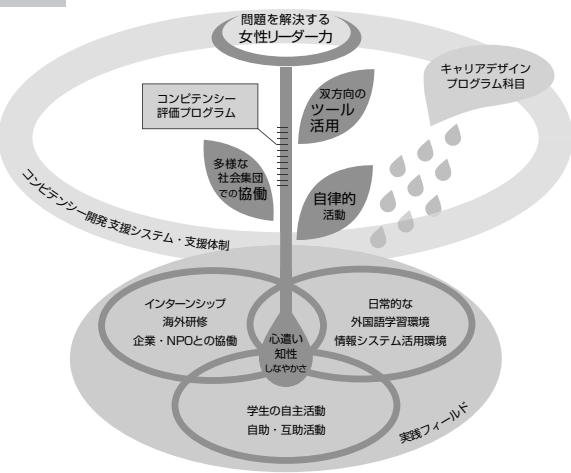


●お茶の水女子大学

お茶の水女子大学では、平成21年4月にキャリア支援センターを発足し、学部教育や学生支援との連携を図りながら、学生のキャリア支援を全学的に行っている。

センターの母体は、平成20年度に採択された学生支援GP「出る杭を育てる〜企業で女性が輝くための学生支援〜」の取り組みである。将来、指導的な地位で活躍する活力ある女性（出る杭）を社会に送り出すことを目標に、大学入学後の早い時期から女性のライフスタイルを意識させることにより、企業への就職さらに管理職への昇進をめざす学生への早期支援を行っている。具体的なプログラムとしては、①OG就活ネットワークの構築、②就職アドバイザーによる企業と学生のマッチング、③働く力の証明となる「就活パスポート」の発行、④企業とタイアップしたキャリア・セミナーの開催などがある。これらにより、働き続ける力、管理職に必要な意識と実行力を養成している。

これらのプログラムの企画・運営に加え、就職ガイダンスや進路・就職相談



エントリーシートの書き方講座や面接対策講座などをきめ細かく行っている。中でも、OGとのつながりには力を入れている。例えば、本学学生が志望する大手企業や官公庁等で活躍中のOGと人事・採用担当者を学内に招き、懇談会+企業（官庁）説明会を個別に開催している。いずれの会も多くが学生が参加し、会場を埋め尽くした。業界のしくみや組織の概要に加え、仕事内容や一日の流れ、職場環境やワークライフバランスなど、「そこで自分が働く」ことをリアルにイメージしやすい話も多く、熱心にメモを取る学生や、活発に質問をする学生も少なく見られた。

昨年度からは、「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」の取り組みが、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択されている。本学では、学生個々の特性と志向性に応じた多様な学士力の養成を目指しているが、その養成過程で修得される諸能力を適切に組み合わせ、女性の地位向上をはじめとする社会的課題の解決に貢献する高度な就業力として発揮できるようにすることが、「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」の目標である。OECDが提案しているキー・コンピテンシーの枠組みをもとに、「双方向のツール活用」

「自律的活動」多様な社会集団での協働」という3分野のコンピテンシーを身につけ、これらを本学が女性リーダー力の核と考える心遣い・知性・しなやかさという思考・行動特性のもと、適切に組み合わせ、成果をあげられるようにしていく。学生が主体的に、また仲間と協働してコンピテンシーを開発できるしくみも計画している。

ほかにも、学生支援センターとの連携のもと、学生の進路意識や行動に関する調査を大学入学時から実施し、体系的な支援の検討・企画を行うとともに、就職先が決定していない卒業・修了予定者や卒業生への支援にも取り組んでいる。卒業・修了予定者に対しては、進路決定状況をこまめに確認し、カウンセリングやワークショップへの参加も促している。就職に対する悩みや不安について、キャリアカウンセラーが個別相談に応じるとともに、「就活応援ワークショップ」を開催し、「支援を必要としているのに、能動的に動かない（動けない）学生への支援」として有効に機能している。

本学は、早くから日本における女性リーダー育成に主導的役割を果たしてきた。さらに、社会的期待や学生の要望に基づき、キャリア開発支援を急速に充実させてつづけている。とはいえ、本学キャリア支援センターは歴史も浅く、取り組みの多くは、試行錯誤しながら進めている。進学や就職を志望する学生への支援も本学では強く求められている。留学生に対する支援も十分とはいえない。課題は山積しているが、学生の特性やニーズを看過することなく、学部教育や学生支援との連携を図りながら、お茶の水女子大学ならではの支援を充実させていきたいと考えている。